

# 京都鞍馬口医療センター地域連絡協議会 議事概要

日 時 平成29年2月23日(木) 14:00～14:55

場 所 5階講堂

- 議 題
- 1.院長挨拶
  - 2.委員紹介
  - 3.当院における地域医療連携の現状について
  - 4.地域包括ケア病棟の運営状況について
  - 5.訪問看護ステーションの開設について
  - 6.鞍馬口医療センターへの意見及び要望について
  - 7.その他

出席者・地域連絡協議会委員（敬称略）

上京東部医師会理事	小林 雅夫
北区保健部健康づくり推進課担当課長	松村 貴代
社会福祉法人北区社会福祉協議会評議員 紫明学区会長	柴山 泰朗
病院利用者代表	山田 友恵

・京都鞍馬口医療センター委員

院 長	能見伸八郎
副院長	島崎 千尋
事務部長	林 卓男
訪問看護ステーション管理者	本田 順子

・庶務

総務企画課長	白倉 直樹
--------	-------

## 会議内容

### 1. 院長 挨拶

この4月で、社会保険病院からJCHOに移行して丸3年になる。基礎作りの期間を終え、4月からはさらに飛躍のステージにしたい。地域の方々のご意見を聞きながら、地域の要望に沿って運営していきたい。

### 2. 委員紹介

新委員：社会福祉法人北区社会福祉協議会評議員、紫明学区会長、柴山泰朗氏

### 3. 当院における地域医療連携の現状について

(院長) 「安心の地域医療を支える JCHO」をキャッチフレーズに地域の安全を支えることを使命とし、5事業を全国的に行う。当院では「へき地医療」は実施していないが、北海道など医師不足地域に医師の派遣を行っている。JCHOの四本柱には、へき地医療も含め、福島県などの被災地にも医師を派遣するなど「医師派遣」、専門ではなく幅広い領域に対応できる「総合診療医の育成」、クラウドの技術を使い東日本と西日本にデータセンターを設置し、24時間365日のデータ管理を行う。「IT化」、超高齢化社会に対応できる在宅を中心としたケアシステム「地域包括ケア」があげられる。

### 4. 地域包括ケア病棟の運営状況

(島崎) 急性期病院では早期退院を迫られ、在宅への不安や退院への不安のある患者の受け入れ先として、在宅への橋渡しとして平成28年3月に地域包括ケア病棟を立ち上げた。現在は34床で運営しており、月30人程度の入院で稼働し、もう少しゆとりがある。短期滞在の手術ではポリペクやヘルニアの患者、去年の年末にはレスパイト入院も3人受け入れた。在宅復帰率は基準の70%を超えており、今後は外来からも受け入れる方向で検討したい。

### 5. 訪問看護ステーションの開設について

(本田) 平成8年から訪問看護室として活動しており、去年の10月訪問看護ステーションとなった。何が変わったか、平日の朝から夕方までの対応から24時間365日対応できる体制へと変わった。看護師が患者宅まで行き、看護させていただく。対象範囲は病院から約3km圏内。北区、上京区、左京区が中心。どうしても対応できない患者については、この3地区にはステーションが30以上もあるため、近くのステーションへ紹介となる。逆に紹介される場合もある。「身体状態の把握・病状の確認」「体調・病状についてのアドバイス」「医療処置・医療機器の管理」「日常生活への援助」「看護サービス利用のアドバイス」などを行っている。現在は看護師3名で対応している。

### 6. 鞍馬口医療センターへの意見及び要望について

(柴山委員) 社会福祉協議会としても、24時間稼働の訪問看護ステーションの開設はありがたい。お互いに助け合っていきたい。

(小林委員) 3名での訪問看護ステーション開設は立派です。夜中の呼び出し回数は何回ぐらいですか。

(本田) 現在、3名の看護師で60名ぐらいの患者に対応しています。電話対応のみならば、夜間・休日は約月15件、家への訪問は月5件ぐらい。

近隣のステーションと比較すれば、少し多い方かと思われます。

(院長) 人員の件は、看護部でも検討しているところ。今後、在宅での看取りが増えてくる。

(松村委員) 保健センターに相談に来られる方の中にも貴院に通院されている患者も多い。24時間対応については、さらに安心できる。

レスパイト入院3件は、どのような疾患の患者ですか。

(島崎) 介護の必要な患者を預かるため、いろいろな疾患があるが、重症の患者ではない。

(山田委員) 整形外科ではたいへんお世話になった。しかし、医師が短期間で変わる、という苦情をよく聞く。貴院で末永く診てもらいたいという気持ちはあるが。

(院長) 当院は京都府立医大の人事によるものが大きく、診療科によっては医師の入れ替わりが多い診療科もある。貴重なご意見ありがとうございます。

(柴山委員) 社会保険病院の時、いろいろと噂が広まり、地域住民が本当に心配した。もう安心してよいのですね。

(院長) 地域の方々にはご心配をおかけしたが、今後は地域の方々に貢献したい。

(柴山委員) 市民公開講座などは、学区民からたいへん好評を得ている。

継続は力なり。是非続けていただきたい。私どもも、できる限り協力したい。

また、認知症の方については特に心配に思う。

(本田) どんなことでもよいので、気になることがあればご相談ください。

## 7. 島崎副院長 挨拶

訪問看護ステーションの役割を十分発揮し、JCHOの使命である、「地域医療、地域包括ケアの要」として、住民から信頼を得られるよう、ますます努力したい。